

同種施設比較分析表

同種施設比較分析表

町田市が運営している“施設”の中でも「市民センター」「図書館」といった同種の施設に着目して、新公会計制度で明らかになった情報を有効活用するため、同種施設比較分析表を作成いたしました。

同種施設の所管課は、この比較分析表を分析ツールとして、同種施設を相互に比較・分析しました。財務情報と非財務情報を交えた施設相互の分析を推進することを目的として、効率性を表す指標と経済性を表す指標の2軸を基準とした分析グラフを活用しています。

この分析で明らかになった知見を活用して、成果の拡大や運営コストの削減を図っていきます。各施設のより詳しい内容は、該当の課別・事業別行政評価シートをご覧ください。

- 同種施設の相互比較にあたっては、行政費用を調整している場合があります。このため、同種施設比較分析表における行政費用・単位あたりコスト分析と、該当の課別・事業別行政評価シートにおける行政費用・単位あたりコスト分析では、金額が異なる場合があります。

<例>

忠生市民センターと忠生図書館は複合施設ですが、貸借対照表における建物(事業用資産)は、忠生市民センター費に計上されています。このため、建物の減価償却費は忠生市民センター費の行政コスト計算書にのみ計上され、忠生図書館事業の行政コスト計算書には計上されていません。

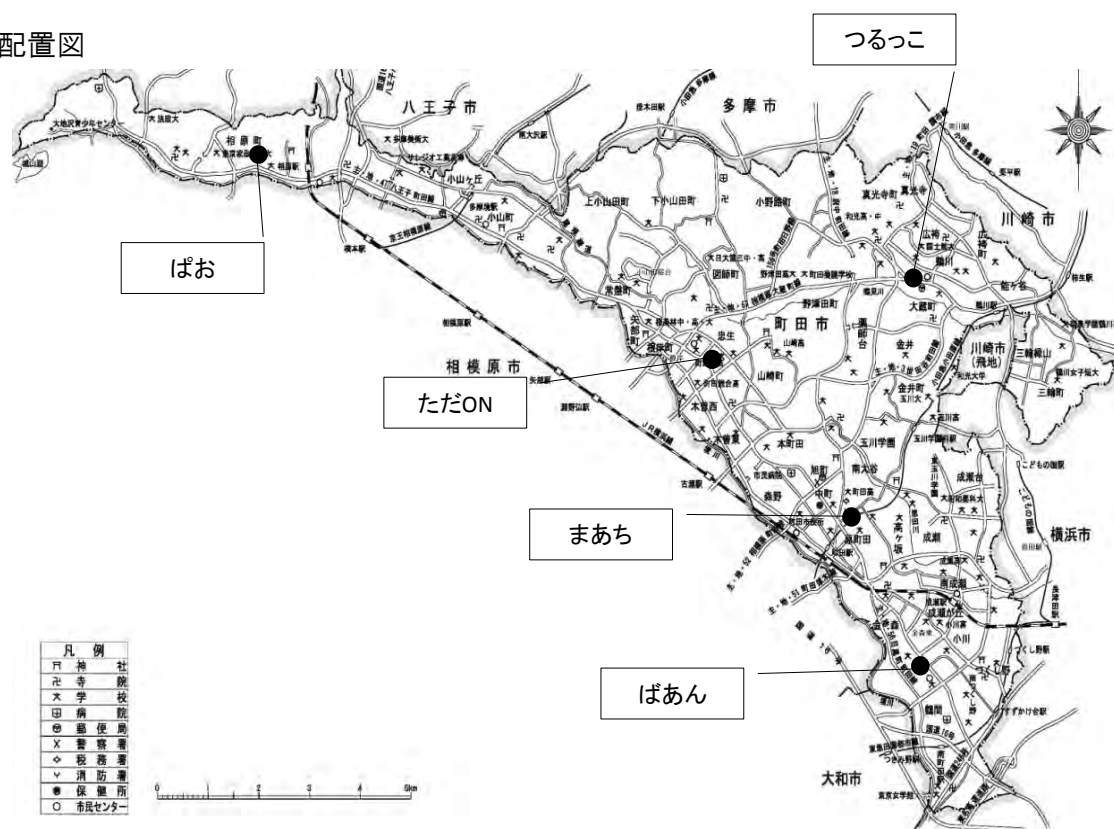
「図書館」という同種施設を比較分析するにあたっては、忠生図書館の建物に係る減価償却費を面積按分により算定し、加算しています。

同種施設比較分析表(子どもセンター)

1 各施設の情報

		ばあん	つるっこ	ばお	ただON	まあち
基本情報	該当ページ	50	52	54	58	60
	建設年月日	1999年3月24日	2005年2月1日	2009年3月27日	2014年1月26日	2016年4月30日
	有形固定資産減価償却率	44.9%	33.2%	23.4%	21.2%	9.7%
行政費用(千円)	人件費	38,103	36,399	37,949	44,930	53,427
	物件費	12,025	12,919	13,916	10,470	14,640
	うち委託料	6,803	7,920	6,449	5,882	7,127
	うち光熱水費	3,122	2,717	1,931	2,486	4,651
	維持補修費	2,095	3,200	1,548	625	1,184
	補助費等	215	175	137	315	221
	減価償却費	10,096	8,032	9,236	14,428	24,713
	賞与・退職手当引当金繰入額	2,386	1,948	5,613	6,345	6,672
行政費用合計	64,920	62,673	68,399	77,113	100,857	
単位あたりコスト分析	延床面積(㎡)	1,339	1,601	1,179	1,564	1,974
	1㎡あたりコスト(円)	48,484	39,146	58,014	49,305	51,093
	利用総人数(人)	50,029	61,857	47,192	70,443	124,714
	利用者1人あたりコスト(円)	1,298	1,013	1,449	1,095	809
	開館日数(日)	269	269	269	268	265
	開館1日あたりコスト(円)	241,338	232,985	254,271	287,735	380,592

2 施設配置図



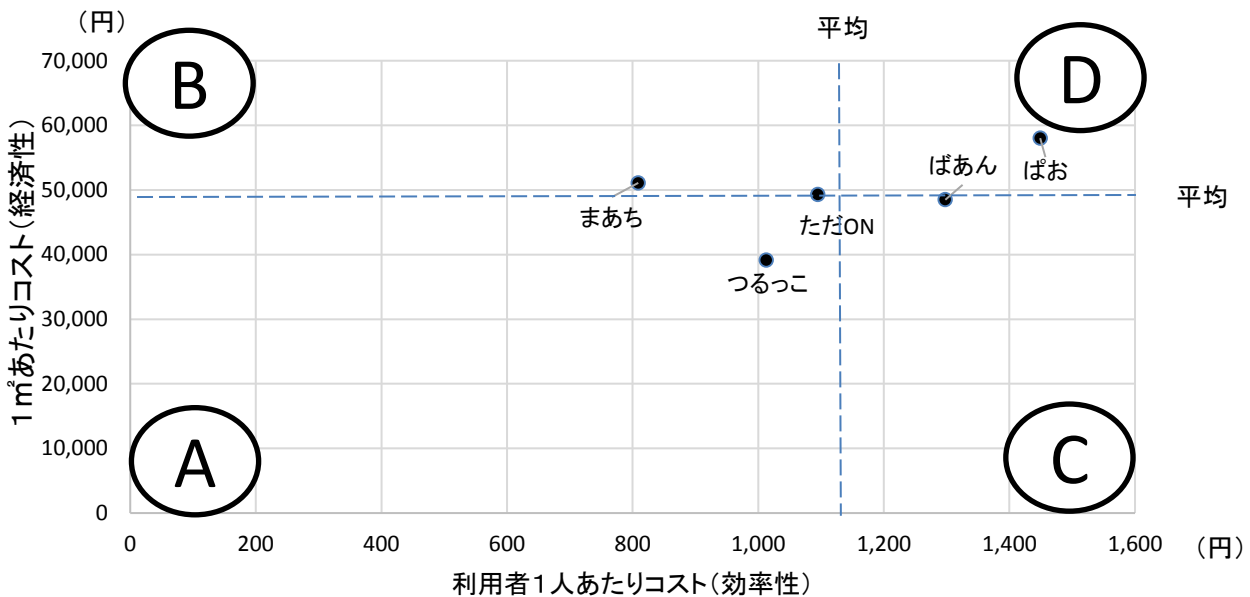
3 2018年度決算で掲げた施設マネジメント改善のための取り組み

・開設から20年経過した子どもセンターばあんをはじめ、設備の老朽化が進み、その対応が大きな課題となっている施設がでてきています。設備の故障は、利用者に大きな影響があることから、計画的な修繕を行っています。

・子どもの数の減少とともに、子どもセンター利用者数も減少傾向にあります。引き続き、それぞれのセンターの立地や地域性を活かし、中高生を中心とした子どもたちが主体となる事業や、地域と子どもが交流できる事業に加えて、新たな「まちとも」への支援も含めた出張事業を行い、利用者数の維持に努めます。また、来館者にとって安全かつ快適な施設となるよう、子ども委員会や利用者が施設の利用方法について考えられるような場の検討などを行い、利用者の満足につなげていきます。

・子どもセンターに求められるニーズや役割を把握するために実施した地域団体向けアンケートの調査結果から、地域活動の担い手の育成支援や、地域イベントへの協力を求められていることがわかりました。今後、地域の行事などに出向き、地域連携を進めるとともに、子どもたちと一緒に地域のイベント等に参加することで、子どもと地域の繋がりを広げていきます。

4 効率性・経済性を軸にした分析グラフ



5 分析欄

①人件費の特徴について

・職員については施設規模、利用者数に応じた配置をしています。まあちは中心市街地にあり、町田駅からアクセスも良いため、利用者数が最も多く、それに対応する人員を配置しているため、人件費が高くなっています。

②1㎡あたりのコストの特徴について(1㎡あたりのコスト平均:49,216円)

・Aの特徴:つるっこは5センターの中で2番目に広い面積であるだけでなく、施設の照明機器をLEDへ更新したことによる電気料金の減少などのため、1㎡あたりのコストが小さくなっています。

・Dの特徴:ばおは5センターの中で最も狭い面積であり、育成室改修の完了により維持補修費は減少していますが、施設用地借り上げ料が固定費として唯一ある施設のため、1㎡あたりのコストが大きくなっています。

③利用者1人あたりコストの特徴について(利用者1人あたりコスト平均:1,133円)

・A・Bの特徴:まあちは好立地による利用者数の多さだけでなく、乳幼児親子対象のサークルの立ち上げなどまあち独自の取り組みを行うなど、利用者数の維持に努めたため、1人あたりコストが小さくなっています。

つるっこは地域団体の支援として、活動の相談や施設貸出などを行いました。また、利用者の要望に応じてスタジオ修繕時に鏡を設置し、スタジオ利用件数の増加を図るなど、利用者数の維持に努めたため、1人あたりコストが小さくなっています。

・Dの特徴:ばおはリーダー育成講座のメンバーの地域イベントへの参加など地域連携を拡充しましたが、新型コロナウイルス感染症の影響などにより利用者数が最も大きく減少したため、1人あたりコストが大きくなっています。

6 施設マネジメント改善のための今後の取り組み

・新型コロナウイルス感染症に対して、新しい生活様式に対応した子どもの居場所づくりが求められています。そのため、利用者ニーズの反映だけでなく、感染拡大防止が図られる新たな管理運営方法を検討をすることで、利用者にとって安心安全な居場所を提供します。

・地域の拠点として多くの方にご利用いただくために、地域との連携事業や出張事業の充実を図るとともに、各施設の情報発信に努め、新たな利用者を増やします。

同種施設比較分析表(図書館)

1 各施設の情報

	中央	さるびあ	鶴川※1	金森※1	忠生※2※3	木曾山崎	堺※2	鶴川駅前※2	
基本情報	該当ページ	152	154	156	158	160	162	164	166
	建設年月日	1990年4月16日	1972年5月22日	1972年2月15日	2000年7月4日	2015年2月27日	1976年3月25日	1983年9月25日	2012年8月31日
	有形固定資産減価償却率	56.9%	83.0%	-	-	-	54.3%	-	-
行政費用(千円)	人件費	368,257	101,241	33,436	68,509	62,824	44,735	56,014	70,854
	物件費	115,044	35,069	20,906	46,299	49,730	22,021	22,566	61,340
	うち委託料	38,497	15,684	7,762	19,878	25,419	8,905	10,181	36,223
	うち光熱水費	13,071	3,746	1,138	3,285	1,409	1,384	781	2,322
	維持補修費	13,930	1,135	18	260	0	1,640	15	210
	補助費等	53,378	18	161	8	8	8	10	10
	減価償却費	33,895	2,067			25,599	3,177	6,176	19,485
	賞与・退職手当引当金繰入額	34,570	4,015	1,143	3,973	1,730	3,099	4,745	4,343
行政費用合計	619,074	143,545	55,664	119,049	139,891	74,680	89,526	156,242	
単位あたりコスト分析	延床面積(m ²)	5,968	1,260	260	1,500	1,266	321	430	1,344
	1m ² あたりコスト(円)	103,732	113,925	214,092	79,366	110,498	232,648	208,200	116,251
	貸出者数(人)	343,159	85,200	52,069	162,148	107,089	62,875	35,937	153,175
	貸出者1人あたりコスト(円)	1,804	1,685	1,069	734	1,306	1,188	2,491	1,020
	開館日数(日)	276	275	275	275	275	275	275	275
	開館1日あたりコスト(円)	2,243,022	521,982	202,415	432,905	508,695	271,564	325,549	568,153
	貸出点数(点)	951,376	322,493	163,540	583,086	455,391	202,115	164,318	463,064
	貸出1点あたりコスト(円)	651	445	340	204	307	369	545	337

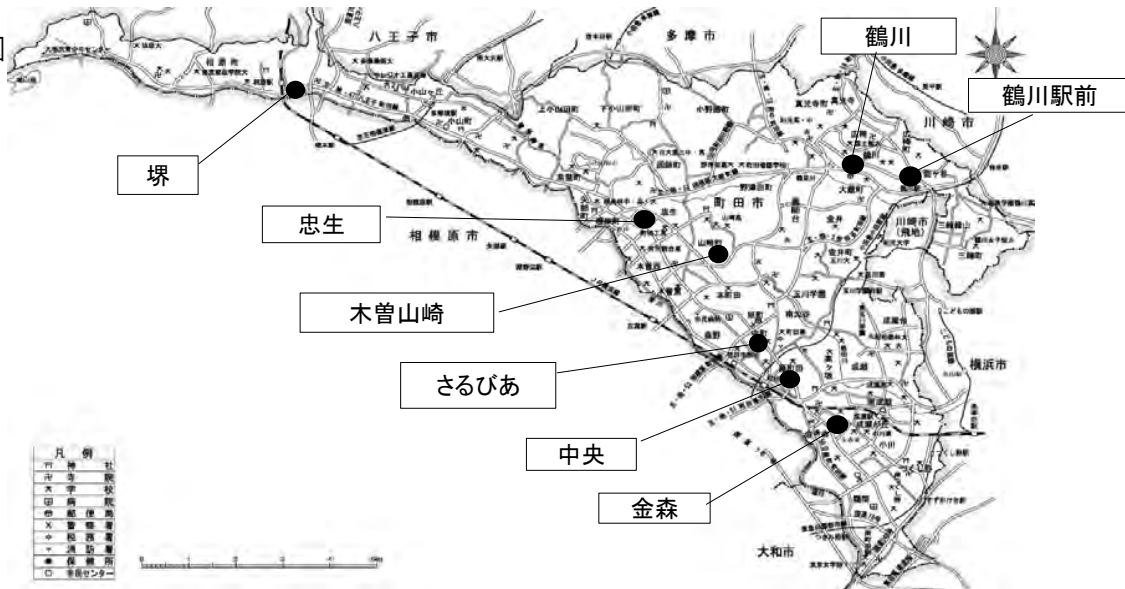
※1 URから有償で借りて運営している鶴川、東京都から無償で借りている金森については、減価償却費を計上していません。

※2 複合施設については減価償却費を面積按分して算出しています。有形固定資産減価償却率を空欄にしています。

	忠生	堺	鶴川駅前
減価償却費(千円)	53,808	41,125	86,684
複合施設全体面積(m ²)	4,687	2,863	5,979
図書館面積(m ²)	1,266	430	1,344
按分減価償却費(千円)	14,534	6,176	19,485

※3 忠生図書館の減価償却費は、建物減価償却費14,534千円及び重要物品減価償却費11,065千円を合算して25,599千円としています。

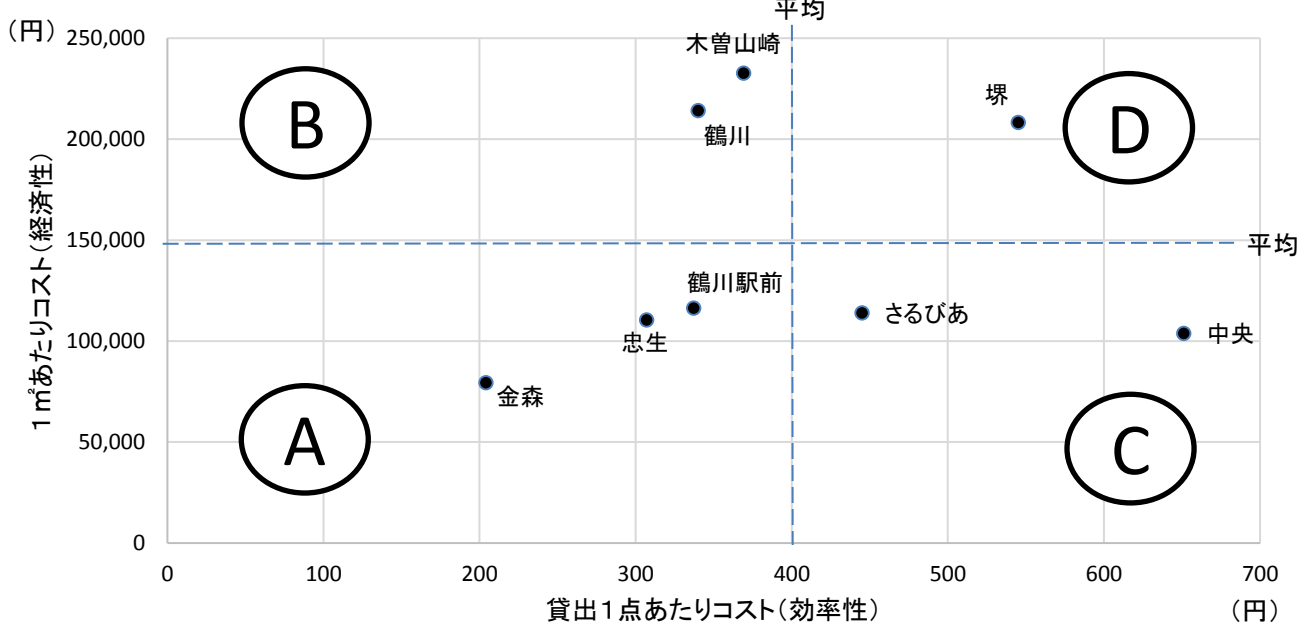
2 施設配置図



3 2018年度決算で掲げた施設マネジメント改善のための取り組み

・「町田市立図書館のあり方見直し方針」を踏まえて、サービスの見直し、図書館資源の再配分、運営体制の確立のためのアクションプランを決定します。
 ・アクションプランの決定にあたっては、立地や規模など各館の特性に応じたサービス、運営体制を検討します。また移動図書館を運営するさるびあ図書館と堺図書館については、計3台の移動図書館の巡回運行の見直しを行い、利用促進を図ります。

4 効率性・経済性を軸にした分析グラフ



5 分析欄

①人件費の特徴について

・中央図書館、中規模館(さるびあ・金森・忠生・鶴川駅前)、小規模館(鶴川・木曾山崎・堺)の3グループで、それぞれ人員配置が異なるため、規模に応じた人件費を支出しています。中央図書館は他の図書館のバックアップに加え、レファレンス(参考調査)、視覚障がいのある方への対面朗読や録音図書資料、来館困難者への宅配サービス、視聴覚資料等の独自サービスを行い、人員を最も多く配置しているため、人件費が高くなっています。また、さるびあ図書館と堺図書館は移動図書館を運営しており、他の同規模館より人員を多く配置しているため、人件費が高くなっています。

②施設規模の特徴について(1㎡あたりコスト平均:147,339円)

・施設運営に最低限必要な人員を配置しているため、小規模館は、1㎡あたりコストが中央図書館や中規模館よりも相対的に高くなっています(B、D区分)。

③貸出点数の特徴について(貸出1点あたりコスト平均:400円)

・中央図書館に次ぐ貸出点数がある金森図書館が、貸出1点あたりコストが最も低くなっています。また、移動図書館を運営している、さるびあ図書館と堺図書館は、他の同規模館より貸出1点あたりコストが高くなっています。

6 施設マネジメント改善のための今後の取り組み

・民間活力の導入や移動図書館の運行見直しなど「効果的・効率的な図書館サービスアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、図書館資源の再配分、運営体制の確立にかかる34の取り組みを推進します。

同種施設比較分析表(市民センター)

1 各施設の情報

		忠生 ^{※1※2}	鶴川 ^{※1}	南	なるせ駅前	堺 ^{※1}	小山
基本情報	該当ページ	350	352	356	360	362	364
	建設年月日	2015年2月27日	1985年10月15日	1987年2月2日	1996年3月19日	1983年3月1日	1995年1月25日
	有形固定資産減価償却率	19.7%	44.9%	63.2%	46.3%	56.7%	48.9%
行政費用(千円)	人件費	80,592	119,725	71,624	83,710	55,577	69,187
	物件費	34,384	19,546	20,419	20,275	18,856	22,995
	うち委託料	27,799	15,099	13,730	12,875	13,885	13,891
	うち光熱水費	4,067	2,937	5,154	5,289	3,565	7,702
	維持補修費	0	3,947	3,701	497	1,335	577
	補助費等	0	0	0	0	0	0
	減価償却費	35,455	28,362	15,358	18,952	29,792	34,567
	賞与・退職手当引当金繰入額	4,316	16,526	8,601	9,994	2,956	17,013
	行政費用合計	154,747	188,106	119,703	133,428	108,516	144,339
単位あたりコスト分析	延床面積(m ²)	3,056	2,087	2,117	2,077	2,074	2,705
	1m ² あたりコスト(円)	50,637	90,132	56,544	64,241	52,322	53,360
	取扱総件数(件) ^{※3}	51,652	85,480	56,484	73,867	32,933	51,113
	取扱件数1件あたりコスト(円)	1,826	1,573	1,353	1,283	2,002	1,530
	利用総人数(人) ^{※4}	77,678	64,608	56,754	58,482	48,061	55,520
	利用者1人あたりコスト(円)	778	831	762	661	886	1,191
	開館日数(日)	358	358	358	358	358	359
	開館1日あたりコスト(円)	432,253	525,436	334,366	372,704	303,117	402,058

※1 複合施設については減価償却費を面積按分して算出しています。

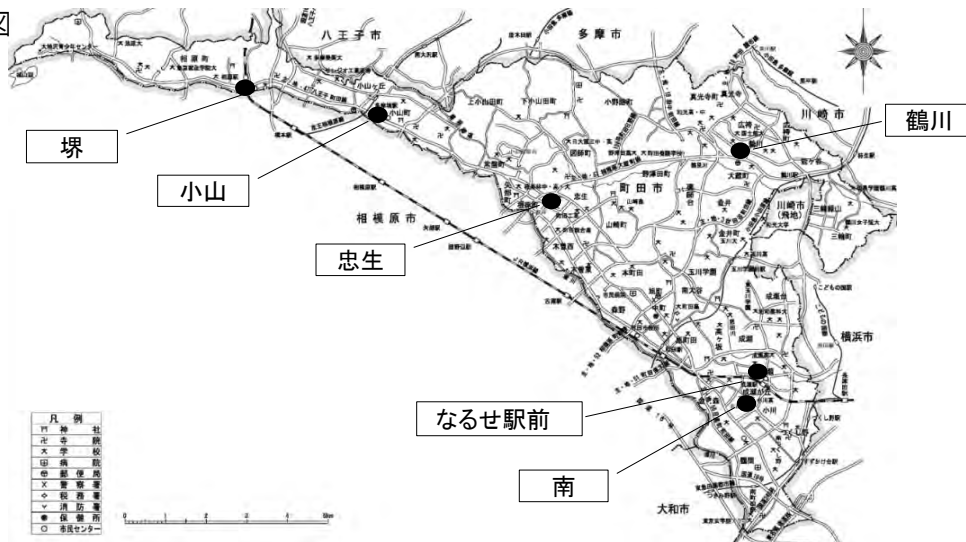
	忠生	鶴川	堺
建物減価償却費(千円)	53,808	35,469	41,125
複合施設全体面積(m ²)	4,687	2,610	2,863
市民センター面積(m ²)	3,056	2,087	2,074
按分減価償却費(千円)	35,084	28,362	29,792

※2 忠生の減価償却費は、建物減価償却費35,084千円及び重要物品減価償却費371千円を合算して35,455千円としています。

※3 証明書交付、各種申請受付等の行政窓口総取扱件数

※4 ホール・会議室等の施設利用総人数

2 施設配置図

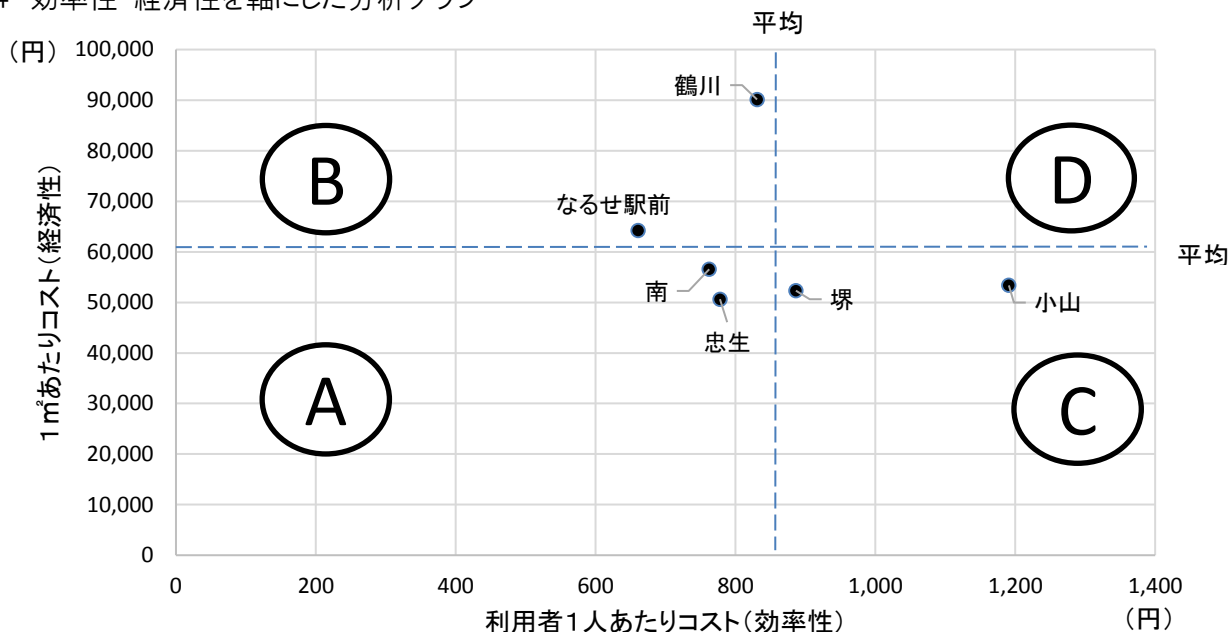


3 2018年度決算で掲げた施設マネジメント改善のための取り組み

・施設利用率の向上を図るため、施設ごとに利用者の属性、利用時間帯などの傾向を分析し、利用率が低くなっている原因を追究するとともに、原因に合わせた改善の取り組みを行います。

・マイナンバー制度の普及やコンビニ交付の増加等に伴い、行政窓口取扱件数のうち証明書発行件数が2017年度と比べて減少しています。一方で、各種問い合わせや証明書発行以外の行政窓口取扱件数は増加しています。このような市民ニーズや環境の変化に伴い、今後施設が担うべき機能やサービス提供のあり方等について、将来的な需要を視野に入れ検討します。

4 効率性・経済性を軸にした分析グラフ



5 分析欄

①人件費の特徴について
 ・市民センターの行政費用のうち、人件費が最も多くの割合を占めています。行政窓口の業務量に応じて、職員を配置しています。

Bの特徴: 鶴川は取扱総件数が多く、職員の配置人数が最も多いため、1㎡あたりコストが高くなっています。

②施設の特徴について
 ・建替えや改修により省エネルギー機器を導入した忠生、鶴川、塚は他施設と比べ延床面積に対する光熱水費の割合が低くなっています。

Cの特徴: 小山は施設の老朽化により光熱水費や減価償却費が高く、利用者1人あたりコストが最も高くなっています。

③行政窓口取扱総件数、施設利用総人数の特徴について
 ・マイナンバーカードの普及やコンビニ交付の増加に伴い、取扱総件数のうち証明書交付件数が減少しています。施設利用率は、夜間の利用率が午前・午後の利用率に比べて低くなっています。

Bの特徴: なるせ駅前前は成瀬駅から徒歩2分という利便性から、施設規模に対して取扱総件数、施設利用総人数が多く、利用者1人あたりコストが最も低くなっています。

6 施設マネジメント改善のための今後の取り組み

・老朽化している施設があります。建物をより長く安全に利用できるよう、計画的な維持・補修に努めます。

・マイナンバーカードの普及に伴い、証明書交付件数は減少傾向にあります。窓口業務に配置する職員数の適正化や業務の効率化を図り、市民の利便性を維持しつつ行政費用を抑えていくよう取り組みます。

・施設利用率向上のため、夜間利用が見込める若年層に向けて近隣の大学へPRを行うなど、積極的な周知活動を行い、新規の利用者を掘り起こすよう努めます。

・市民ニーズや環境変化を踏まえ、行政窓口および集会施設のあり方を検討し、(仮称)市民センター等の未来ビジョンを策定します。

同種施設比較分析表(コミュニティセンター)

1 各施設の情報

	成瀬	木曽森野 ^{※1}	三輪 ^{※2※3}	つくし野	
基本情報	該当ページ	328	330	332	334
	建設年月日	1987年12月16日 2016年5月20日	-	2002年3月28日	1982年8月1日
	有形固定資産減価償却率	28.5%	-	37.3%	53.2%
行政費用(千円)	人件費	7,992	5,195	5,317	5,197
	物件費	22,188	13,166	16,813	13,831
	うち委託料	16,701	9,763	11,067	9,731
	うち光熱水費	4,719	2,785	2,925	2,971
	維持補修費	98	103	466	894
	補助費等	0	0	0	0
	減価償却費	59,125		4,948	9,687
	賞与・退職手当引当金繰入額	77	298	77	298
行政費用合計	89,480	18,762	27,621	29,907	
単位あたりコスト分析	延床面積(m ²)	1,850	1,000	1,190	1,003
	1m ² あたりコスト(円)	48,368	18,762	23,211	29,818
	利用総人数(人)	60,675	33,392	29,227	49,106
	利用者1人あたりコスト(円)	1,475	562	945	609
	開館日数(日)	348	348	348	348
	開館1日あたりコスト(円)	257,126	53,914	79,370	85,940

※1 東京都から無償で借りて運営している木曽森野については、減価償却費を計上していません。

※2 複合施設については減価償却費を面積按分して算出しています。

	三輪
建物・工作物減価償却費(千円)	6,191
複合施設全体面積(m ²)	1,488
コミュニティセンター面積(m ²)	1,190
按分減価償却費(千円)	4,948

※3 複合施設である三輪の物件費(光熱水費)については実績値に基づく調整をしているため、事業別行政評価シートとは金額が異なります。

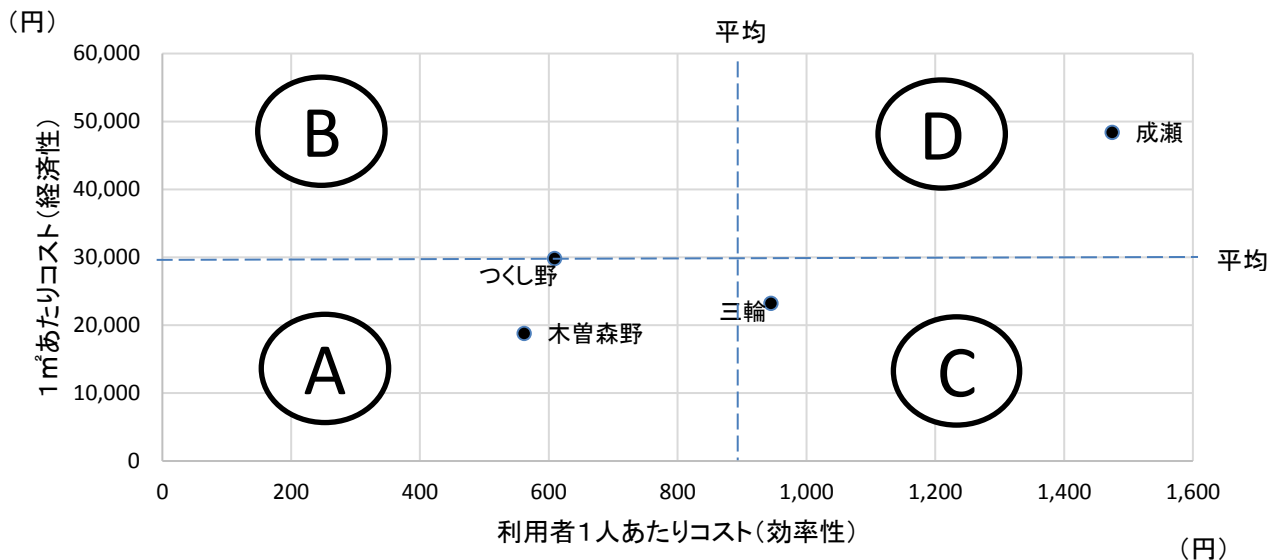
2 施設配置図



3 2018年度決算で掲げた施設マネジメント改善のための取り組み

・各施設において、夜間の施設利用率が午前・午後の施設利用率に比べて20%以上低くなっています。また和室等、特定の室場の施設利用率が低いこと等が施設全体の利用率を下げる要因となっています。今後、夜間の施設利用に関して、アンケート調査などにより市民のニーズの把握に努めていきます。

4 効率性・経済性を軸にした分析グラフ



5 分析欄

①物件費の特徴について

Dの特徴:成瀬は、小学校跡地を活用して建設され、敷地面積5,805㎡、延床面積1850㎡と他施設よりも広く、部屋数も多くなっています。そのため、施設を維持管理するために必要となる光熱水費、警備や清掃に係る委託料等が、他施設と比較すると高くなっています。

②施設の特徴について

Dの特徴:成瀬は物件費及び減価償却費も高いため、1㎡あたりコスト、利用者1人あたりコストが最も高くなっています。
Aの特徴:木曾森野は、都営住宅の1階部分を都から借りていますが、部屋数が少なく、都が建物を所有しているため減価償却費はありません。そのため、1㎡あたりコスト、利用者1人あたりコストが最も低くなっています。

③利用者数の特徴について

Dの特徴:成瀬は、リニューアルオープン後4年が経過していますが、施設が新しく、部屋数・駐車台数が多いため、近隣にお住まいの方以外の利用も多い状況です。

Cの特徴:三輪は、最寄り駅からバス利用が必要で、駐車台数も少ないため、近隣にお住まいの方以外の利用が少ない状況です。

6 施設マネジメント改善のための今後の取り組み

・新型コロナウイルス感染症の状況に応じ、マスクの着用、利用人数の制限、施設利用時の消毒などを行い、予防措置を講じながら施設の貸出を行います。

・施設貸出の時間帯区分として、午前、午後、夜間としていますが、すべての施設において、夜間帯の利用率が低い状況です(利用総人数の多い成瀬にあっても、時間帯区分別の利用率は、午前66.7%、午後69.5%、夜間44.8%となっており、日中と夜間では、20ポイント以上の差があります)。施設利用率向上のため、夜間利用が見込める若年層に向けて近隣の大学へPRを行うなど、積極的な周知活動を行い、新規の利用につながるよう努めます。

・施設の適切な維持管理のために、計画的に修繕を実施します。

同種施設比較分析表(連絡所)

1 各施設の情報

	町田駅前 ^{※1}	木曽山崎 ^{※2}	玉川学園駅前 ^{※1}	鶴川駅前 ^{※2}	南町田駅前 ^{※1}	
基本情報	該当ページ	344	346	348	354	358
	建設年月日	1998年4月7日	1982年8月17日	2019年2月12日	2012年9月29日	2017年3月1日
	有形固定資産減価償却率	-	63.9%	-	-	-
行政費用(千円)	人件費	43,235	33,140	25,012	36,893	28,479
	物件費	17,578	21,511	8,774	1,410	12,354
	うち委託料	30	13,772	1,766	963	1,400
	うち光熱水費	498	6,502	464	181	1,130
	維持補修費	0	2,487	0	0	0
	補助費等	0	0	0	0	0
	減価償却費		11,944		971	
	賞与・退職手当引当金繰入額	3,883	2,909	3,696	3,651	943
	行政費用合計	64,696	71,991	37,482	42,925	41,776
単位あたりコスト分析	延床面積(m ²)	109	1,611	136	67	121
	1m ² あたりコスト(円)	593,541	44,687	275,603	640,677	345,256
	取扱総件数(件) ^{※3}	67,634	19,878	10,586	37,036	37,690
	取扱件数1件あたりコスト(円)	957	1,776	3,541	1,159	1,108
	利用総人数(人) ^{※4}	-	53,169	-	-	-
	利用者1人あたりコスト(円)	-	690	-	-	-
	開館日数(日)	334	357	240	314	334
	開館1日あたりコスト(円)	193,701	201,655	156,175	136,705	125,078

※1 町田駅前、南町田駅前、玉川学園駅前連絡所は、賃貸建物のため減価償却費を計上していません。

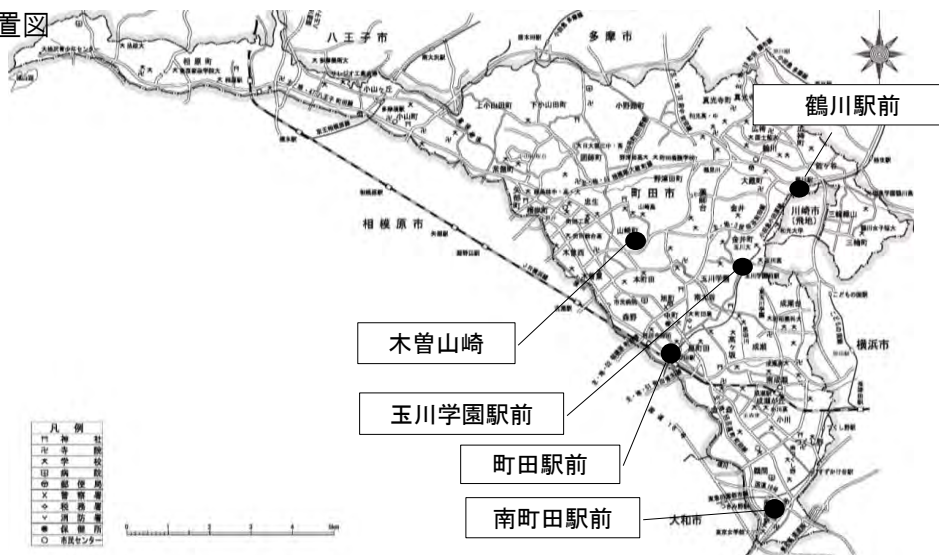
※2 複合施設については減価償却費を面積按分して算出しています。

	木曽山崎	鶴川駅前
建物減価償却費(千円)	15,607	86,684
複合施設全体面積(m ²)	2,105	5,979
連絡所面積(m ²)	1,611	67
按分減価償却費(千円)	11,944	971

※3 証明書交付、各種申請受付等の行政窓口取扱件数

※4 ホール・会議室等の施設利用人数

2 施設配置図



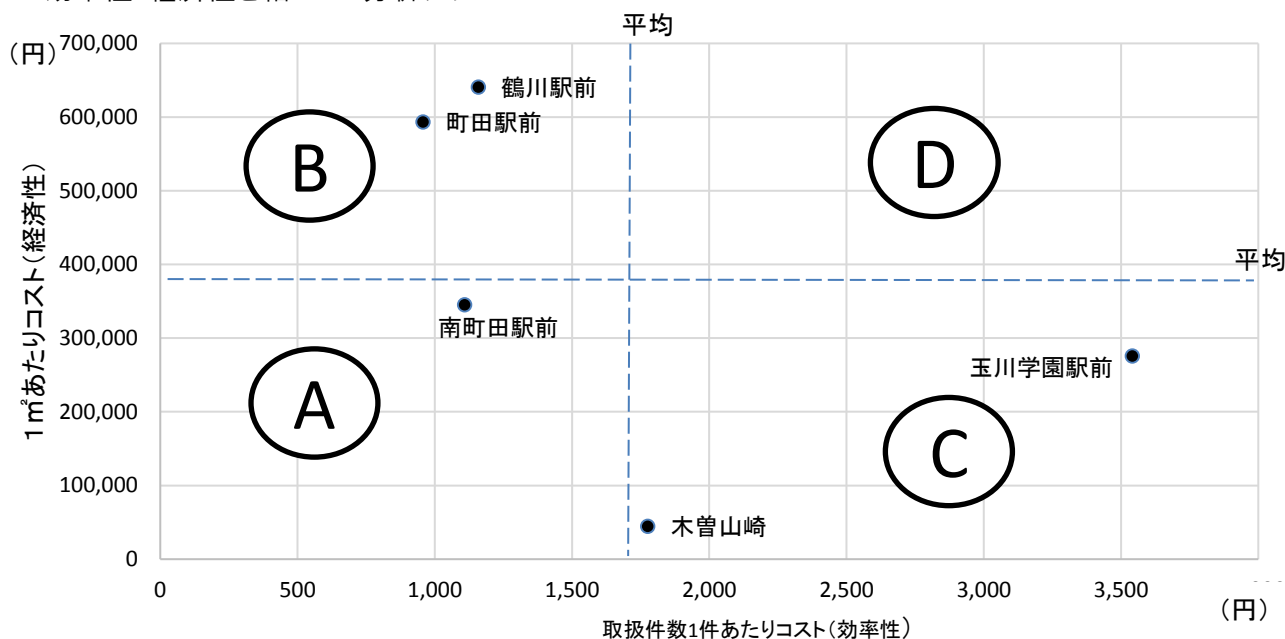
3 2018年度決算で掲げた施設マネジメント改善のための取り組み

・木曾山崎は施設利用率向上のため、施設の周知方法の検討や使用目的の見直しについて検討します。また、安全で安心して利用できる施設であるための適切な修繕等維持管理を行っていきます。

・玉川学園駅前には仮設事務所となり、施設規模が小さくなりましたが、室内を効率よく整理整頓するなど利便性を高め、利用者の増大を図るとともに、光熱水費などのコスト削減にも努めます。また、建替え後の新しい施設に関しては、施設利用率向上に繋がる利便性の高い備品の購入や各貸出部屋の適正な利用方法を検討するなど、より多くの方々に利用していただけるような快適な施設となるように整備してまいります。

・マイナンバー制度の普及やコンビニ交付の増加等に伴い、行政窓口取扱件数のうち証明書発行件数が2017年度と比べて減少しています。一方で、各種問い合わせや証明書発行以外の行政窓口取扱件数は増加しています。このような市民ニーズや環境の変化に伴い、今後施設が担うべき機能やサービス提供のあり方等について、将来的な需要を視野に入れ検討します。

4 効率性・経済性を軸にした分析グラフ



5 分析欄

①人件費の特徴について

・全体の特徴: 平日夜間・土日も開所している町田駅前、鶴川駅前、南町田駅前と比較すると、玉川学園駅前及び木曾山崎は、職員の配置人員が少なくなっています。

・Bの特徴: 町田駅前連絡所は、市内で最も乗降者が多い町田駅前という利便性の高い立地と平日、夜間や土日なども開所しているため、配置されている人員が他の連絡所よりも多くなっています。

②施設規模の特徴について

・Cの特徴: 木曾山崎は行政窓口業務のほかに貸出施設業務も行っていることから、他の連絡所と比べて施設規模が大きく、1㎡あたりコストは低くなっています。玉川学園駅前は、建替えに伴う仮設事務所への移転により、2018年度と比較すると、施設規模が縮小し、1㎡あたりコストが増加しています。

③行政窓口取扱件数、施設利用者数の特徴について

・Bの特徴: 鶴川駅前は、複合施設の中にあり、図書館の利用やホールの利用と合わせて立ち寄る利用者が多く、証明発行等の本来業務以外の問合せが多くなっています。

・Cの特徴: 玉川学園駅前は、建替えによる玉川学園コミュニティセンター閉鎖のため、貸出施設の利用実績、コストともに発生していません。また、仮設事務所への移転に伴い、児童図書貸出を中止したため、行政窓口取扱件数が2018年度に比べ大幅に減少し、1件あたりコストが連絡所のなかで最も高くなっています。木曾山崎は駅から遠方のため他の連絡所と比べて窓口での証明書交付件数が少なくなっています。一方、施設の老朽化による維持補修費や減価償却費、併設する「ふれあいくぬぎ館」の浴場営業に係る光熱水費等が単位あたりコストに大きく影響しています。

6 施設マネジメント改善のための今後の取り組み

・新型コロナウイルス感染症対策を万全にし、来所者に安全で行き届いたサービスの提供を目指します。証明書発行件数の減少やマイナンバーカードの普及、問い合わせの増加などから、連絡所のあり方について検討する必要があります。木曾山崎は施設利用率向上のため、近隣にオープンした桜美林大学へ施設を利用した活動を案内することで、学生の利用促進を図ります。また、安全で安心して施設を利用するために計画的な修繕等を実施して適切な維持管理を行ってまいります。玉川学園駅前は、現在の仮設事務所において来所者の動線に配慮したフロア環境を整備するなどさらに利便性を高めます。また、建替え後の新しい施設に関しては、備品や各部屋の適正な利用方法を決定するなど、2021年5月の開設に向けて準備を進めてまいります。

同種施設比較分析表(ふれあい館)

1 各施設の情報

		もみじ館 (金森)	いちよう館 (鶴川)	もっこく館 ^{※1} (町田)	くぬぎ館 ^{※1} (木曽山崎)	けやき館 ^{※1} (堺)	桜館 ^{※2} (小山田)
基本情報	該当ページ	220	222	224	226	228	230
	建設年月日	1975年2月28日	1978年1月5日	1989年3月22日	1982年10月13日	1983年3月31日	1994年3月17日
	有形固定資産減価償却率	72.2%	52.5%	-	-	-	49.4%
行政費用(千円)	人件費	19,222	15,679	18,940	19,277	21,242	901
	物件費	9,021	9,074	7,689	7,539	3,564	33,631
	うち委託料	5,142	5,180	4,372	4,265	2,475	33,500
	うち光熱水費	2,672	2,595	2,646	1,986	656	0
	指定管理委託料 うち光熱水費 ^{※3}						5,612
	指定管理委託料 うち人件費 ^{※3}						18,005
	維持補修費	460	16	516	760	104	0
	補助費等	150	212	276	118	148	0
	減価償却費	2,422	4,838	4,494	3,659	5,162	15,068
	賞与・退職手当引当金繰入額	0	0	0	0	9,261	60
	行政費用合計	31,275	29,819	31,915	31,353	39,481	49,660
単位あたりコスト分析	延床面積(m ²)	581	720	826	493	359	1,074
	1m ² あたりコスト(円)	53,830	41,415	38,638	63,596	109,975	46,238
	利用総人数(人)	19,615	22,328	29,578	44,761	12,922	25,769
	利用者1人あたりコスト(円)	1,594	1,335	1,079	700	3,055	1,927
	開館日数(日)	265	203	262	263	263	265
	開館1日あたりコスト(円)	118,019	146,892	121,813	119,213	150,118	187,396

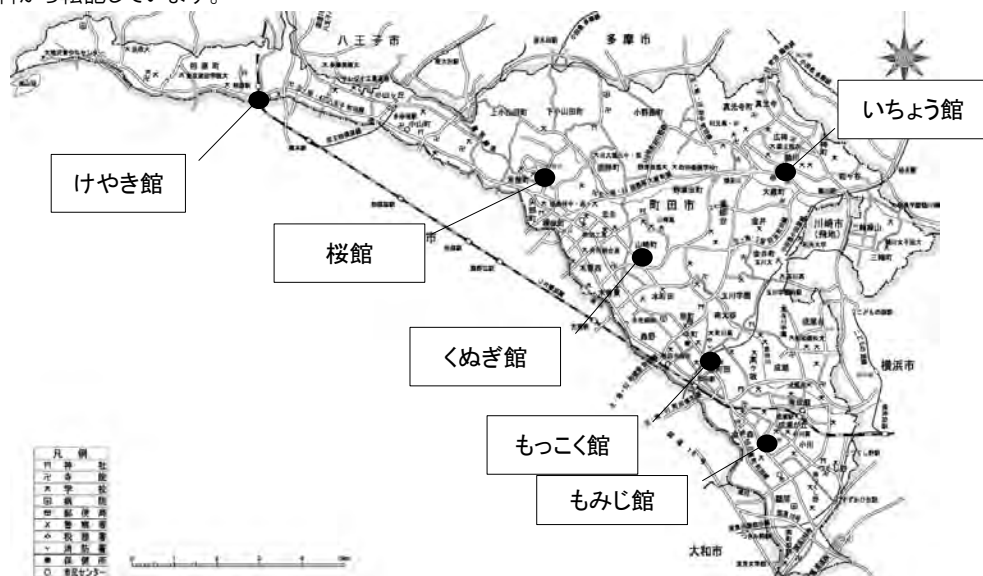
※1 複合施設については減価償却費を面積按分して算出しています。

	もっこく館	くぬぎ館	けやき館	桜館
建物減価償却費(千円)	24,105	15,607	41,125	39,621
複合施設全体面積(m ²)	4,429	2,105	2,863	2,824
ふれあい館面積(m ²)	826	493	359	1,074
按分減価償却費(千円)	4,494	3,659	5,162	15,068

※2 桜館については、デイサービス(1F)等に係る減価償却費を面積按分で控除し、老人福祉センター(2F)分のみを算出しています。

※3 受託法人の決算資料から転記しています。

2 施設配置図



3 2018年度決算で掲げた施設マネジメント改善のための取り組み

・行政経営改革プランに基づき、管理運営コストの削減を図るため、ふれあい館全体として、効果的、効率的な管理運営体制への見直しを検討します。(2019・2020年度)

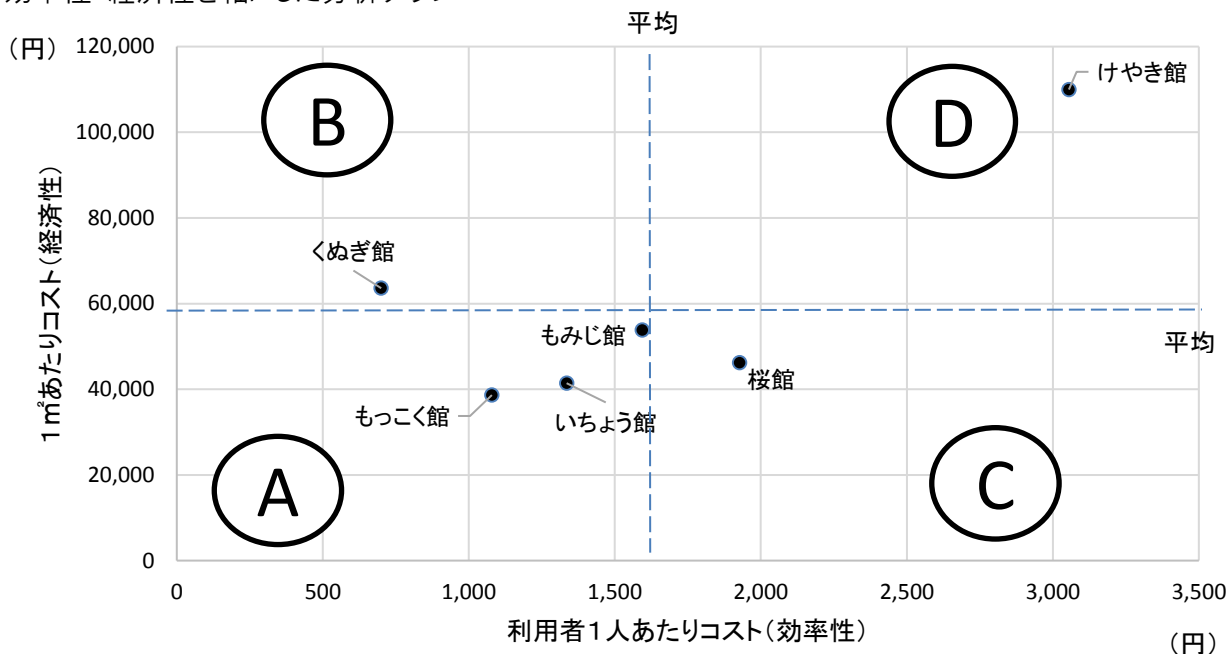
・検討に当たっては、「4 効率性・経済性を軸にした分析グラフ」において、各館のグラフ上の位置をA区分に近づける視点が求められています。

・桜館、けやき館は、大規模改修に伴う長期休館の後、利用者数の回復に至っていません。利用者数の増加につながる取組が求められていると共に、施設の規模に見合った管理運営コストを検討する必要があります。

・くぬぎ館は施設規模に対し利用者数が多いことから、人件費、物件費共に他館と同水準の費用が必要となっています。

・「4 効率性・経済性を軸にした分析グラフ」における適正な平均値については、町田市内6館の平均だけでなく、近隣自治体の類似施設との比較も行った上で、検討していく必要があります。

4 効率性・経済性を軸にした分析グラフ



5 分析欄

①人件費の特徴について
 全体的特徴:ふれあい館の行政費用の内、最も多くの割合を占めているのは人件費です。
 ・6館のうち、桜館のみ指定管理者制度を導入しています。このため桜館の人件費は他の5館の平均の20分の1程度に抑えられています。桜館を除く5館の行政費用に対する人件費の割合の平均は、57.7%です。

②1㎡あたりのコストの特徴について
 ・1㎡あたりコストの平均は58,949円です。
 ・B区分の特徴:くぬぎ館はA区分及びC区分の位置にあるふれあい各館と比較し、延べ床面積が小さいため、1㎡あたりコストが大きくなっています。
 ・D区分の特徴:けやき館は延べ床面積が他館より小さいことに加え、職員構成の関係で引当金が計上されているため行政費用が大きくなっています。その結果1㎡あたりのコストが他館より大きくなっています。

③利用者数1人あたりコストの特徴について
 ・利用者1人あたりのコストの平均は1,615円です。
 ・桜館とけやき館は2月までの利用者数が増えたため、利用者数1人あたりのコスト増加を抑制できました。
 ・新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う休館の影響もあり、利用総人数が減少傾向にあるため、コストが上昇しています。

6 施設マネジメント改善のための今後の取り組み

・行政経営改革プランに基づき、管理運営コストの削減を図るため、ふれあい館全体として、効果的、効率的な管理運営体制への見直しを検討します。

・検討に当たっては、上記「4 効率性・経済性を軸にした分析グラフ」において、各館のグラフ上の位置をA区分に近づける視点が求められています。

・A区分に近づけるためには、行政費用のコスト削減、利用者数の増加を目的とした取組が有効と考えられます。

・利用者増に繋がった取組は、他館にも取り入れることで、ふれあい館全体の利用者増に繋げることが必要です。

・上記「4 効率性・経済性を軸にした分析グラフ」におけるコストについては、ふれあい館間の比較だけでなく、近隣自治体の同種施設との比較も行い、適正なコストを検討していく必要があります。

